

天地

ネットワーク テーブル 451号

発行：天地シニアネットワーク：2017・6・29

TENTĪ TODAY		1
会員の広場	<「般若心経読本」を読んで><卒寿を越えた諸先輩> <動画コーナー>	2
連載作品		4
講演録	「60年安保闘争と高度成長時代の幕開け」(1)	加藤 幹夫 4
随想	天のわざ、地のほまれ—地球を測れ、宇宙をはかれ— 28. ナノメートルの世界 — 原子、分子のミクロな性質	伊那 闊歩 7
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(24) <洛中の洛外2・平等院(その2)>	大竹 漢洲 10
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」	13
事務局		14

TENTĪ TODAY

満80歳を迎えましたが、生年の昭和12年(1937年)は、日中戦争が始まった年であり、前年には、二・二六事件がありました。来年は、明治維新から150年、記念行事がいろいろとあるようです。日本だけでなく世界の歴史が逆戻りしていると言われてはいますが、歴史が逆戻りするならば過去の歴史をよく知ることが必要と考えています。明治・大正・昭和、あらためて見直したいものです。

私たちは、60年安保世代、ノンポリでしたが、学内集会、国会議事堂へのデモなどに参加しました。前号でご紹介しましたが、当時、学内リーダーの一人として活躍していた加藤幹夫さんが、一橋大学創立150年史準備室が発行する「ニュースレター・2017・3」を事務所に送ってくれました。「60年安保闘争と高度成長時代の幕開け」という題で母校の学生へ話をした講演要旨が掲載されていました。

加藤さんは、卒業後大手鉄鋼会社で活躍された経済人、当時の安保闘争をどう捉えているのか、興味のあるところ。内容が豊富なので、2回に分けさせていただき、連載作品欄にのせることにしました。

都議選が始まっていますが、事務所の界限はいたって静かです。古くからの住民が多く、地盤が確定しているのかもしれませんが、それにしても、稲田

防衛大臣の応援演説、びっくりです。日本の防衛を判断力に欠けた方に任せるのはリスクが大きすぎます。先人の苦労を一気に踏みにじるような、言動、行為は、日本の文化に合いません。

会員の広場

「般若心経読本」を読んで

瀧島 幸市

東北大震災が来た年の暮れでした。家内が入院一ヵ月もたたない内に死んで、今年のもくりに七回忌を迎えます。それまで仏壇に手を合わせて念仏をとんでいただけでしたが、それ以降般若心経を唱え、写経をするようになりました。写経も現在2000枚近くになります。

今年一月か10回にわたり藤田克明氏が書いて下さった「般若心経読本」を読ませて頂き276文字の経典を学ばせて頂きました。理解力のない私としては難しい文章でしたが、繰り返し読み10回の「般若心経読本」を読み通しました。上辺だけの理解に終わった感のある所も多いが般若心経を深く勉強させて頂き感謝申し上げたい。この頃では「心経」を覚え、唱え、そして写経も出来るようになりました。加えて最近では写仏もしてこれらが生活の一部になり、無心になれ、心安らぎ、毎日楽しみにしている一時です。

いつもメルマガをお送りくださり、ありがとうございます。日々の生活に追われていると、世の中の大きな事件はぼんやりと目や耳に入るものの、それ以外には疎くなってしまいうようで、葉書の値上がりもメルマガを見て知った次第です。また、地政学は、私も興味がありながら不勉強だったのですが、数多くの文献を紹介していただいているので、少しずつでも読んでいこうと思います。会員の皆様は、ほんとうに幅広い分野の知識やご経験のおありの方が大勢いらっしゃるようですね。忙しいことを言い訳に、つつい怠けてしまう自分を反省しています。(T. TAKEUTI)

『卒寿を越えた諸先輩』

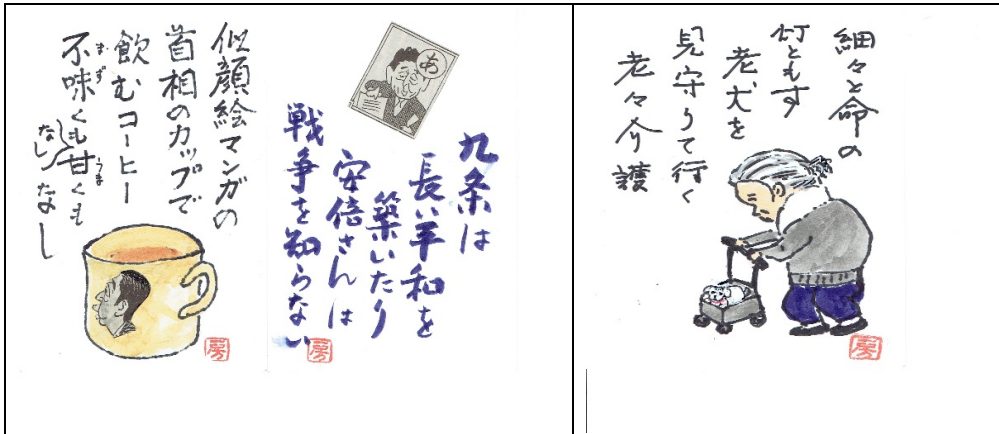
(津田)

会社での先輩で92歳になる、山本イキさん、横浜から、栃木・今市に移住、一人暮らしをしています。今年初めに片方の脚が痛く整形外科に行き、3ヶ月ほど通ったが痛みがとれず、浮腫も出てきたので思いきって内科の医者に行ったそうです。診断は、脚の血管に梗塞があるので即入院、数日で梗塞が消え、退院、元気を取り戻してアマチュアカメラマンとしてまた動き回っているようです。たまたま内科にいったのが良かったけど、あのまま整形外科に続けて行っていたらどうなったか、考えると恐ろしいと語っていました。

高校の担任の先生は95歳、小学校の担任の先生は91歳と、今なお元気でいらっしゃいます。先日、小学校のクラス会のあと、いつものように先生とカラオケに行きました。しばらくして疲れたと言って、長椅子に横になり、

マイク片手に画面の歌詞を見ずに最後まで歌い上げましたが、1曲、2曲ではないのですからビックリです。「傘寿」でもあまり威張れません。

知人から紹介された絵ハガキです。書いた方は、95歳の女性。送られてくるはがきには、このような絵と字がいつも添えられているそうです。絵、文、字、すべて素晴らしいと、いつも感激しているそう。上欄の先生方も、配偶者を亡くしての一人生活ですが、長寿なので一人頑張られるのか、一人で頑張られるから長寿なのか、未知の世界です。



<動画>コーナー

yaku5151 (小泉)

(6 / 23受信)

梅雨晴れ間？と思えば各地では集中豪雨とか。儘にならないのが天気ですが、被害に遭われたら大変です。

そんな気候の中、ノー天気な私は、古都奈良3日間のツアーへ。周りには修学旅行以来・・・との声も多く聞こえましたが、国宝・重文等の神社仏閣・仏像と楽しんで来ました

しかし、皆さんもご承知のように、お堂内・社殿内は撮影禁止が多くストレスも溜まる旅でしたが、何とか纏めてみました。全13本になりますが、取り敢えず、第1部1~7までを送らせて頂きます。

- 1) 橿原神宮 <https://youtu.be/F7AMGriokm8>
- 2) 興福寺昼と夜 <https://youtu.be/4nFjaw960gg>
- 3) 東大寺大仏殿 <https://youtu.be/6cnWCaPtEvc>
- 4) 東大寺二月堂 <https://youtu.be/9-PFqtHBtU4>
- 5) 春日大社 <https://youtu.be/f4D26iFTxws>
- 6) 信貴山 <https://youtu.be/hnnedBfABS0>

7) 法隆寺

<https://youtu.be/QSTNkTQhCR0>

多くの国宝のある古都奈良でしたが、映像は殆どが建造物だけになりました。第2部でも同じですが、久しく行っていない方には思い出が蘇るのでは？

連載作品

「一橋大学創立150年史準備室ニューズレターN03」（2017年3月発行）より。内容については、事務局で抜粋し、編集させていただいています。

「60年安保闘争と高度成長時代の幕開け」（1）

加藤幹夫

はじめに

「一橋大学の歴史」シリーズで、2014年6月30日と2016年6月6日の二回、「昭和30年代の学園」というテーマで母校学生にお話する機会をいただいた。二回目は共同レクチャラーとして宮崎省吾君にも加わっていただいた。以下は二回目の講義の際に配布した加藤の分のレジメを加筆修正したものである。その時代の学園の全体像を描き出すことは手に負えないので、私的な体験を踏まえて、一番私にとりインパクトの大きかった「60年安保闘争」を中心に講話をさせていただいた。

入学当時（1956年・4月）

・ 授業料	9,000 円	535,800 円
入学金	1,000 円	262,000 同

前期（1, 2年）は小平分校。3年から国立の本校に。まだ社会全体が貧しい時代で、学生アルバイトに勤しむ学生が多かった。定時制高校から入学する学生も居た。一度社会に出てから入学する学生も居た。

学生実態調査（60年11月実施）から：

「父兄の仕送りで生活しているものは、32%、残りの68%は奨学金やアルバイトに頼って生活している。家庭からの仕送りが全く無い者13%を占める。比較的到低所得家庭の子弟が多い。」

当時と比較すると今は、大学院を入れて学校の規模が3倍になっている。女子学生がゼロだったことも特徴的である。授業料が安かった。私が就職した時の初任給が17,000円だったから授業料はこの半分のレベルである。

当時国立大学生一人当たり20万円程度の国家予算が投入されていたと言われる。文部省は授業料の値上げを繰り返し進めようとしたが、1948年に創立された全学連（全日本学生自治会総連合）の指導する「学生の生活を守

る闘い」によってはね返されて来た。全学連は後述するように安保闘争の軸を担うことになるが、授業料値上げ反対も主な活動のテーマだった。その創立総会は兼松講堂で開催されている。

基礎経済指標に見る当時と現在の比較

	1955年		2015年	
人口	8,928万人		12,730万人	
就業人口	3,926		6,351	
第一次産業	1,664 (42%)		318 (5%)	
第二次産業	891 (2.3)		1,651 (26)	
第三次産業	1,370 (35)		4,382 (69)	
GDP (10億円)	8,332		499,095	
貿易規模	1960年	輸出 1.46兆円	輸入	1.62兆円
	1970年	輸出 6.96	輸入	6.80
	2015年	輸出 76.61	輸入	78.40
粗鋼生産	1960年	2,214万トン	2015年	105,152万トン
自動車生産		17万台		928万台

我々の時代に高度成長が始まっている。「高度経済成長の時代（1955年から1973年までの18年間に、日本の経済規模は名目で13倍、実質で5倍にもなった」（中村、安藤）上記のように1955年のGDPは僅か8兆円だった。

今と比べると人口構成に占める第一次産業（主として農業）の比率が高い、これが高度成長を支える労働力の供給源となった。それと産業構造の変化が進行した にか経済躍進を支えた。

「戦前の軽工業を軸とする経済では、製品の付加価値が少なく、韓出するためにはそれ以上の輸入が必要だった。戦後重化学工業化を進めたことにより、製品の付加価値が大幅に増えて。輸入をずっと上回る輸出が可能となった。」（米倉）

言いかえると、交易条件[輸出物価指数を輸入物価指数で割った値は大幅に改善した。貿易収支が1970年によく黒字化が実現した。

同時に、高度成長の時代には、水俣病のような環境破壊による公害が発生すると共に、「公共事業」と言う名目で、空港、港湾、鉄道、道路等のインフラの建設が強行され、おれに対する地域の住民運動が巻き起こった。

前期（1957年、58年、1～2年生）の頃の学生運動

基本は平和運動。原水爆実験禁止、原子戦争反対を呼びかける運動だった。当時水素爆弾が開発段階にあった。アメリカとソ連が大規模な核実験を繰り返して実施。英国、フランスが核保有国となり核実験を行う。遅れて中国が

核保有国に。1954年には福竜丸船員の被ばく事故が起きている。

同時期に起こったのが立川基地拡張反対闘争（1955—57）。拡張予定地の砂川町の農民が立ち上がった。まず測量を阻止することだった。機動力のある動員が必要ということで、労働組合（総評）に応援を求めたが、総評は全学連に動員を要請。数次の流血の闘争の結果、測量を中止させ、最終的には基地を廃止させた。一橋からも延べ数百人が参加。全学連の名前が広く知れ渡る契機となった。

1957年2月に発足した岸信介氏（1896—1987）を首班とする自民党内閣は、安全保障条約の改定に取り組むが、その前段階で矢継ぎ早に制度改正を打ち出した。それが教員の勤務評定（勤評）制度の導入と、警察官職務執行法（警職法）の改正であった。特に警職法の改正は国民の強い反撃を呼び起こした。

全学連を中心に学生運動が盛り上がり、前期自治会では、1958年5月15日に、原子戦争反対、勤評反対を掲げてストを決行。

秋には前期自治会、宮崎委員長の下で、10月15日と27、28日の二回、3日間、原子戦争反対、勤評反対、警職法改正反対のストを決行。正門前にピケを張って、教員と学生を説得。実行に先立って全学投票を行っている。（ストに賛成511名、反対212名、保留12名）教官有志、大学院学生有志にも賛同の動き。ストに至る過程で実に民主的なステップを踏んだことが記憶に残る。

全国でも数百万大規模の反対運動が展開され、結局警職法改正案を岸内閣は引っ速めて運動は勝利に終わった。「大衆運動が勝利を収めたのは初めての経験であり、労働者・学生に「やれば出来る」という気持ちをあたえた。これが翌午からの安保闘争につながっていったのである。」（中村）

後期（1959年、60年、3～4年生）のころ

安保闘争とは何か。

1953年の講和条約の際にアメリカとの間に締結された安保条約は、アメリカに日本全土に軍事基地を提供する義務を負いながら、アメリカに日本を防衛する義務はなく、しかも期限の定めもなく、内乱条項まであって、片務的であった、これを当時の岸内閣はより対等なものに改定しようとした。

新安保条約は米国の日本防衛義務を定めるとか、期限を決めるとか、双務的な内容にしようとはしているが、適用範囲が「極東」とされ、米国は日本防衛のためだけでなく極東の地域への出撃のために、日本全土の基地が使えるようになる、これにより米国の軍事行動に日本が巻き込まれるという危険性が高まるという反対論が台頭、この動きを先導したのが全学連だった。

岸内閣はまず安保を改定し、その次に憲法改正を行い、自前の軍備を強化しようとしており、「日本帝国主義の復活」を目指していると警鐘を鳴らした。最初は運動は低調だったが、全学連の活動もあり、政党や労働組合にも反対論が強まり、やがて、国民運動となって行く。

「1960年5月19日の岸内閣による国会の会期延長と条約批准案の強行採決は国民に大きな衝撃を与え、これ以降自然承認の6月19日まで史上未曾有の大衆運動の高揚を招いた。岸内閣はアイゼンハウワー米国大統領の訪日

に会わせてそれまでに汀安保条約の成立をはかろうとした。」(中村)

この暴挙で闘争の性格が、安保反対に加えて民主主義を守ろう、岸内閣を打倒しようという闘いになった。全学連による6月15日の国会突入闘争で、東大生、樺美智子さんが警官隊との衝突で死亡した。

岸首相はアイゼンハウワース大統領の訪日を断念。条約は参院の承認を得ないままに6月18日に自然成立した。条約発効後、岸首相は退陣した。

(つづく)

天のわざ、地のほまれ

—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

28. ナノメートルの世界 — 原子、分子のミクロな性質

前回までは、空気などの気体を巨視的に(かたまりとして)捉えて、その性質を調べてきたが、今回は気体だけでなく、液体や固体なども含めて、身のまわりの物質を微視的な立場(原子や分子のレベル)で眺めてみようと思う。長さの単位をメートルからナノメートル(nm)で測る世界に入り込もうというのだ。

ナノメートル(nm)とは10億分の1メートル($1\text{nm} = 10^{-9}\text{m}$)、原子1個のサイズは0.1 nm程度なので、このスケール変換により原子や分子などの世界の眺めがズームアップされるのである。ナノメートルより一桁小さい100億分の1メートルを1オングストローム(\AA 、 $1\text{\AA} = 10^{-10}\text{m}$)というが、この単位は国際度量衡委員会で使用を公式に認められていない。結晶の格子間隔や光の波長などの測定に特定して使われるようである。

このミクロの世界を「ナノワールド」と呼ぶことにしよう。ここでは、種類ごとに一定のサイズを持つ原子や分子が自由に運動し、ある種の原子は集まって整然と並び、結晶を形成しているのが見られるであろう。同種の原子や分子が同じサイズであるために、相互に働く力が単純化され、物理や化学の対象として扱いやすくなっている。ナノワールドを支配する力学を「量子力学」と呼んでいる。量子力学の詳細に立ち入ることはしないが、量子力学から得られた結果や法則などは今回十分に活用させてもらうこととする。量子力学によって、たとえば、地球から何千光年も離れた遠方にある恒星や、星雲、超新星の残骸など天体を形成する物質が何であるか容易に識別できるのだ。

水素ガスは、水素原子 H (原子番号1、原子量1)がふたつ結合してできる水素分子 H_2 の集合体である。水素原子 H は、中心に陽子(プロトン、記号は p 、プラスの電荷を帯びる)とよばれる水素の原子核があり、そのまわりに電子(エレクトロン、記号は e 、電荷はマイナス)が1個原子核に束縛されて運動しているという構造をもっている (fig.1)。水溶液中で電子を

失って遊離している水素を H^+ と書いて水素イオンというが、これはまさに水素の原子核であってプロトンそのものである。

酸素原子 O (原子番号 8、原子量 16) の原子核は 8 個の陽子に加えて 8 個の中性子 (ニュートロン、記号は n, 電荷は 0) からできている。それらは強い核力によって固くむすびついている。陽子と中性子の質量の和が、その原子の質量 (原子量) になっている。そのまわりを 8 個の電子が運動していて、全体として電氣的に中性をたもっている。陽子の数が、その原子の原子番号となり、元素としての性質を決めている。安定した原子核の中の陽子の数は、まわりを運動する電子の数と等しい。つまり各原子はその原子番号に相当する数だけの電子をまわりに侍らしているのだ。元素の化学的性質はこの電子たちが決めている (*)。

ヘリウム原子 He (原子番号 2、原子量 4) の原子核は、2 個の陽子と 2 個の中性子が固く結合してできている (fig. 2)。そのまわりを 2 個の電子がまわっていて電氣的に中性になっている (**)。ヘリウム原子はたいへん安定した原子である。一方、水素原子 H (原子番号 1) は不安定であるため、見かけだけでもヘリウムをまねようとする。それには、もうひとつの水素原子と組んで、まわりの電子をふたつ共有して H_2 分子となり、2 つの原子核はひとつにはなれないが、見かけだけはヘリウム原子に似て安定しようとするのである。これを水素の共有結合という (fig. 3)。

これから原子 1 つをひとつの (マンションのような) 集合住宅に対応させて考えていくことにしよう。その住人は電子たちである。このマンションの各階に入れる人数はきまっていて、1 階には 2 人、2 階には 8 人、3 階には 18 人、4 階には 32 人、…、第 n 階には最大 $2n^2$ 人はいることができる。各マンションの 1 階には必ず管理人夫婦 2 人 (***) が住んでいる。水素は例外で、管理人室に独身者 1 人だけが住み、何かと落ち着かないのだ。

酸素 O (原子番号 8 = まわりの電子数) は 2 階建てで 2 階には 6 人住んでいる、ナトリウム Na (原子番号 11) は 3 階建て、その 3 階には独身者が 1 人住んでいる。塩素 Cl (原子番号 17) も 3 階建てで、1 階管理室に 2 人、2 階に 8 人、3 階には 7 人 (合計 17 人) はいつている。

ここで以下のような面白いことに気が付く。ネオン Ne (原子番号 10) は 2 階建て、2 階には 8 人住んでいる。アルゴン Ar (原子番号 18) は 3 階建て、3 階には 8 人住んでいる。クリプトン Kr (原子番号 36) は 4 階建て、4 階にはやはり 8 人住んでいる。ネオン、アルゴン、クリプトンは、希ガスと呼ばれ、ヘリウム (これも希ガス) とともにたいへん安定した元素である。これ

らの原子は（ヘリウムを除いて）最上階に電子を 8 人居住させて安定し満足しているのである。希ガスはこのほかにキセノン Xe（原子番号 54、5 階建て）とラドン Rn（原子番号 86、6 階建て）があるが、これらも最上階には 8 人の電子を住まわせている。その下の階にはまだ空きがあるにもかかわらず、上に建て増ししてそこに 8 人収容したいのである。これらのことはすべて量子力学の結果なのだ。

原子はすべて、最上階に 8 人入れることに強いこだわりがあるのだ。

そこで次のようなことが起こる。ナトリウム Na（原子番号 11）は 3 階建てで、2 階には 8 人はいっていて、3 階には独身者が 1 人住んでいる。できることならこの目障りな独身者をほうりだしたいのだ。塩素 Cl（原子番号 17）も 3 階建てで、1 階管理室に 2 人、2 階に 8 人、3 階には 7 人（合計 17 人）はいっている。こちらは、独身者をひとり見つけてきて 3 階にいれば、8 人になって都合がよい。たまたまナトリウムと塩素が出会ったら、すぐさまウィンウィンの取引が成立し、ナトリウムの最上階をひとりじめする独身者は塩素に転居する。両者の欲望は満たされるのだが、しかし、これでめでたしめでたしとはいかないのだ。この電子の移動により、塩素はマイナスの電荷を帯びて塩素イオン Cl^- となり、逆にナトリウムは電子をとられてプラスの電荷があらわれナトリウムイオン Na^+ になり両者の間に強い電気的な引力が発生する。つまり、ナトリウムと塩素はお互いに束縛状態に陥り、自由がきかなくなる。ここに生じた物質が塩 NaCl であって、この結合状態をイオン結合とよんでいる。

ここでもう少し身のまわりの物質の化学構造を調べてみよう。炭素 C（原子番号 6）は、2 階建てで 2 階には 4 人住んでいるが、炭素としてはここにさらに 4 人住まわせ 8 人にしたいのだ。そこでてっとり早く、水素原子を 4 個捕まえてかれらがそれぞれ持つ独身者を共有することにより、炭素原子の 2 階の空きを埋めるのである。こうして出来た化合物がメタン CH_4 である。酸素 O は 2 階に 2 人分の空きがある。酸素 2 個は共謀して炭素を襲い、2 階の住人を奪おうとする。炭素は 2 個の酸素と取引し、2 階の住人 4 人を完全に手放すのではなく共有しようとして酸素にもちかける。こうして出来上がったものが 2 酸化炭素 CO_2 である。

2 酸化炭素は $O=C=O$ という形（構造式）にかかれ、炭素と酸素の間に 2 重の橋がかかっている。その結合（2 重結合）は強力に安定しているのだ。窒素 N（原子番号 7）は 2 階建て、2 階には 5 人住んでいる。8 人にするためには、水素を 3 個捉えて電子 3 人を共有して安定しようとする。こうしてできた化合物がアンモニア NH_3 なのである。窒素ガスは窒素分子 N_2 の集合体であ

るが、窒素分子の構造式は $\text{N} \equiv \text{N}$ 、2つの窒素原子が**3重結合**しており、その結合は強く安定した分子になっている。こうして見てくるとナノワールドの住人たちも、何か人間臭く興味がわいてくるのではなからうか。

(*) 水素原子 H は、プロトン(陽子)と呼ばれる原子核のまわりを 0.054nm 離れてひとつの電子(電子)がまわっているという構造をもっている。水素分子 H_2 の2つのプロトンの間の距離は 0.074 nm 、それゆえ、水素分子のサイズは 0.18 nm くらいのもものらしい。陽子の質量は、水素の分子量2をアヴォガドロ数で割り算することにより算出することができる：陽子の質量 = 1.673×10^{-24} グラム、中性子の質量 = 1.675×10^{-24} グラム。これらの値はあまりにも小さいので、炭素12の質量を端数なしで12ときめ、これを基準として原子の質量を決定することとし、こうして決めた質量を**相対質量**とよぶ。水素の相対質量は1.0078であるが、ここでは、この端数を無視して水素の原子量(質量数)は1とする。電子の質量は、陽子や中性子の質量にくらべてはるかに小さい(陽子の質量の $1/1836$)。

(**) ヘリウム原子はたいへん安定した原子で、他の原子とは没交渉(活性度がきわめて低い)なため、宇宙で2番目に多い元素でありながら、この世に存在しないも同然、ラムゼーによって発見されるまで、その存在が疑問視されていたという。ヘリウムガスはヘリウム原子(単原子分子)の集合体で、無色、無味、無臭、無毒。空気よりも軽いので、地表付近には天然に存在しないのだ。

(***) 電子には質量、電荷(マイナス)などのほかにスピンと呼ばれるものを持ち合わせており、それは磁石のN極とS極の向きのようなものに対応してアップとダウンの2つの自由度をもっている。本文では、スピンのアップとダウンを電子の性別に対応させた。アップとアップは強く反発する。ダウンとダウンも両立しないのだ。アップとダウンなら、同じ部屋に同居できるのである。

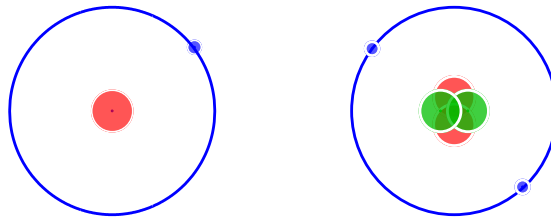


fig.1 水素原子のイメージ。中心の赤丸は陽子(プロトン)。青丸は電子を表す。

fig.2 ヘリウム原子のイメージ。緑丸は中性子を表す。

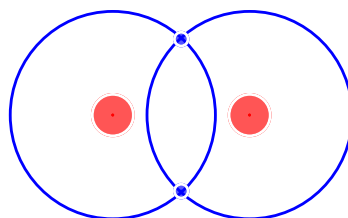


fig.3 水素分子のイメージ。2個の電子を共有している。

洛中洛外 2・平等院（その2）

（前号のつづき）

飛鳥・奈良・平安前期に広まった仏教は、現世での救いを求めるものでした。平安末期に入ると、日本では末法思想が広く信じられ、当時の貴族たちは西方浄土に救われることを強く願い、西方浄土の教主とする阿弥陀如来を本尊とした寺院が数多く建てられるようになりました。鳳凰堂と周辺の浄土式庭園も「観無量寿経」に基づいて阿弥陀如来の観想をこの世に作り上げた世界です。

余談です。「観無量寿経」の一節に「若し至心に西方に生まれんと欲する者は、先ず正に一の丈六の像を池水に在るを観るべし」とあります。忠実に再現された世界を、1000年後の今日に目にする事のできる平等焼鳥屋堂の姿は、日常生活の煩雑さを忘れさせてくれます。

池水に映った阿弥陀如来のお姿を見れば、極楽浄土に導いてくれるようです。因みに阿弥陀如来の声を聞きたいことを願った経典が「無量寿経」です。

平等院は私たちの生活の真じかにあり、馴染み深い寺院です。何気なく見過ごしていますが、日頃お世話になっている10円硬貨の背面意匠が鳳凰堂です。ご存じでしたね！

正門近くに入場受付があり、入ると左回りに誘導路があり導いてくれます。やがて赤く染まった紅葉の間から建物の右部分が姿を現してきます。阿字池にある中之島に、東を正面にした阿弥陀如来坐像を安置する中堂が建ち、中堂の左右には、北翼楼と南翼楼が建ち、中堂の背後にある尾楼4棟から平等院は構成されて、最初に目にした右部分が南翼楼です。左右シンメトリーで優美な造形をしており、一般の寺院とは全く異なった趣をしています。

鳳凰堂の由来は、建物が正に鳳凰が飛行している優雅な姿を想像できますが、中堂の軒上には一対の鳳凰を戴いていることがら呼ばれています。創建当初は、「御堂」「阿弥陀堂」と称されていましたが、「平等院鳳凰堂」と呼ばれるようになったのは、600年後の江戸期に入ってからです。

旅人の稚拙な文書よりも澤田瞳子著「満つる月の如し」冒頭の文章を借用して、鳳凰堂と浄土式庭園の素晴らしい雰囲気を伝えます。

「日が高く昇るにつれて、中堂の前に掘られた池は、うららかな陽射しを受け、水面を明るく輝かせ始めた。大小の魚影が玉石を敷いた底をちらちら過ぎさり、澄明な水に繊細な揺らぎを起こす。その周りでは木々を覆う玉網が、波頭に砕けた光を映じ、小さな虹を散らしていた。今も変わらずに、透明で美しい蓮の咲く池水に、大きな緋鯉が泳ぎ、水面の波紋の影が、堂宇と白壁に反射して、美しい数多くの飛天が雲の中を舞っているようです。」と書き出しています。

余談です。阿字池は澄水で満たされて、鳳凰堂の優美な姿を今も映し出しています。この池水の引き込み先に興味を抱きました。方法論として平等院正面に流れる宇治川から引くか?地下水を汲み上げるか?であろうかと想像して、たまたま近くで作業していた園丁に声を掛けて問いました。快く答えてくれた返事は想像外でした。創建当初から阿字池は、背後の山かの引き水で満たされてきました。表面に湧き上がる泡と水面の揺らぎが証拠のようです。しかし昨今、空気の汚れと雨水の酸性化で、引き水だけでは澄水は保てなくて、試験的にクボタの浄化装置を使って透明度をたもっているとの事でした。阿字池の澄んだ水が平等院美の生命です。

阿字池の真正面に立って、堂宇に向き合っています。中堂正面の屋根は一段高く設計されており、外観に変化を持たせるとともに、池の対岸から阿弥陀如来坐像を拝する様に工夫されています。東大寺の大仏殿も同じ工夫の施された扉戸が設けられています。

正面門から舎殿に石畳を歩いて近づくと、毘盧舎那仏の尊顔を外からも拝する事ができます。「御堂」は摂関家藤原頼通の氏寺であり、当時、位のある貴族でも自由に堂宇内に立ち入ることは許されなかった筈です。

今、西方浄土に旅立つことを願った人びとは、庭園に入る事を許され、池水に映った阿弥陀如来のお顔を拝み、御堂の窓から池を越えて北岸まで張られた阿弥陀如来の御手に結ばれた五色の糸を、握りしめる事に心の安らぎを得たのかも知れません。窓を設けたのは頼通の“御福分け“であったことを願います。

鳳凰堂は屋根の葺き替え・柱などの塗り直し修理が行われ、完了したのが昨年(2014年)の秋でした。以後の堂宇見学は人数と時間制限を設けて、時間まで待たなければなりません。貴重な文化財を後世に伝え残す為には、致し方のないことです。

堂宇内は再び澤田瞳子著『満つる月の如し』から引用します。

「堂の廻りを巡る澄水の池。螺鈿を散りばめた須弥壇上では、飛天光を負った丈六阿弥陀如来が、蓮華八葉座に坐している。堂内の小壁には、五十二体の供養菩薩像が掛けられ、それぞれ手にした楽器を奏で、美しい舞を舞っている。柱を埋め尽くす彩画にも負けぬ彩りを示すのは、扉や壁に描かれた九品来迎図と日想観図。上品上生から下品下生、九等の行者の行蹟と往生の有様を写す来迎図には、美しい山河がのびのびと描かれ、生きとし生けるものの輝きが活写されている。

各絵扇に添えられた観経の手蹟の流麗さ、扉金具の精紋な細工。どこをとっても御仏の賛美せざる箇所なく、庭園から建築、絵画工芸に至るまで、中堂全体が一つの張り詰めた美となって、阿弥陀如来の神々しさに威を添えるであろう。」

澤田瞳子氏は、定朝の遺された数少ない資料から「尊容満月如」を掘り起こして、この小説を書く切っ掛けにしたと語っています。「尊容満月如」は定朝が彫った阿弥陀如来のご尊顔に他なりません。又、小説から引用します。

「太い鑿で大まかな形を掘り出せば、今度は、小さい盤と小刀で目鼻立ちの造作にかかる。ぽってりと厚い瞼、それと裏腹な細い目。おだやかな丸みを

描く頬と少し下がった唇。鑿を鑢に持ち替えて、しなやかな弧を描く眉毛を、頬を磨き出す腕は、夢の中で不思議なほど自在に動き、定朝を洗忽とさせた。」

定朝が彫っている阿弥陀如来の尊顔は、小説に登場する一条天皇の皇妃彩子に仕える女房(中務)が巻き込まれた事件で亡くなった死顔を写しています。

「このお顔を、仏像に写されるおつもりですか。定朝はゆっくりと振り返り、青ざめた顔で、はい、とうなずいた。生きながら地獄に深い慈悲を与える御仏を探し求めていた定朝。眼裏に不思議なほどくっきりと、彼が彫るであろう御仏の姿が写った」「生死を超越した者だけが獲得しえる、この世のものにならざる安寧と仁。定朝は中務が死に際して浮かべた慈悲相を生きる者たちに蘇らせるに違いない。」と。

是非、澤田瞳子氏の小説も読むことをお勧めします。しっかりとした平安時代背景の中に、貴賤に関わらず人々の生き様が活写されています。

平等院正面のうどん屋で昼食を取った後に、再びタクシーでJR平等院駅に戻り電車の人になりました。京都国立博物館で『琳派展』が開催されている事を思い出して、時間を有効に活用することにしました。『琳派展』は、想像以上の混雑で、新幹線の時間も気になりましたが、掻き分け押し分けて観ることは出来ました。

詳細は図録に任せるとして、矢張り圧巻は、尾形光琳・俵屋宗達・酒井抱一の「風神雷神」でした。俵屋宗達は「伝」の作品が多く、謎の人物とも言われています。定朝もそうでしたが、旅人の好む浮世絵師写楽も含めて、全て謎の人物です。[若冲]を善かれた澤田瞳子氏が「俵屋宗達」も書いてくれる事を切望します。

文化講座・講演会・

奈良興福寺文化講座 2017年7月20日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「運慶展の楽しみ方」

興福寺 執事 辻 明俊

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話：「奈良・祈り・心」

興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

第84回 新三木会講演会のご案内

1、日時・会場 2017年7月20日(木)13:00-15:00

2、演題 『気骨の自由主義者、石橋湛山回想』 浅野純次氏

経済倶楽部理事 元東洋経済新報社社長

3. 申込・会費 E/Mail: shinsanmokukai@gmail.com

TEL: 047-464-4063

フルネーム: 一般・天地シニアネットワーク

会費: 2000円 婦人 1000円 学生無料

茶話会: 15:15-14:20 千円 (自由参加)

4. ホームページ

<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告

● 8/17(木) 第85回 伊東 隆氏 東京大学名誉教授
『昭和史片々、近代史と私ー歴史学の醍醐味』

● 9/21(木), 第86回 鈴木興太郎氏
一橋大学・早稲田大学名誉教授

『血の通った経済学を求めて』

事務局

<事務所までの道のり>

場所: 〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号
(電話・FAX 番号: 03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと(都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると)、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。(1階は焼肉屋「もとやま」。)そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書のおすすめ依頼>

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送ります。その際には、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

天地シニアネットワーク・テーブル・451号

発行：2017年6月29日

：天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号室
TEL・FAX 03-3837-0290
E-Mail tenti@mvc.biglobe.ne.jp